

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

- 1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力
- 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
- 3 心身ともに健康であり続ける力

2 中期的目標（H27年度～29年度）

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ

ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、放課後の「居残り指導」を徹底する。また、身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図る。

※平成29年度には遅刻総数を2500件以下とする。（H26：3,506件 H27：3,208件）

イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H26：86.9% H27：86.3%）を平成28年度までに90%以上に引きあげ維持する。

(2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ

ア 行事を通じて育成される生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるため、学校行事・HR活動の「質の向上」をめざす。また、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会執行部の主体的な活動を積極的に支援する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率（H26：73.2% H27：71.7%）を平成29年度には80%以上とし、生徒向け学校教員自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率（H26：83.8% H27：82.8%）をH29年度までに90%以上にする。

イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、学校見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。

※部活動の加入率（H26：49.2% H27：49%）ならびに部活動に対する満足度（H26：80% H27：92%）を引きあげ、H29年度には加入率を60%以上、満足度を90%以上にする。

ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め、尊重していくことのできる精神を育む。

※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H26：65.7% H27：67.6%）を毎年引きあげ、平成29年度には80%以上にする。

(3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ

ア 「進路のてびき」を作成し、系統的な進路指導計画への改善を進め、平成28年度には「吹田進路プログラム」を確実に定着させる。また、進路指導部と進学講習ブラッシュアップチーム（SBT）が中心となり、1年生から3年生までの学習進行に応じた計画的進学講習のさらなる定着・発展に努める。

※進学講習へのべ参加生徒数（H26：135人 H27：341名）を平成29年度には350人以上とする。

イ 進路検討会議の定例化により、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認し、3年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施していく。

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H26：76.8% H27：78.6%）を毎年引きあげ、平成29年度には85%以上にする。

2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業アンケートの個人・科目・教科による系統的かつ綿密な分析等に基づき、「吹高 CAN-DO リスト」を全教科で策定するとともに、「分かる授業開発PT」（WJK）の取組みを踏まえたICTの活用促進などにより「わかる授業、魅力ある授業」をめざして、さらなる授業改善に組織的に取り組む。あわせて、これまで蓄積してきた「朝の学習会（朝ガク）」に関するノウハウを整理し、継続的に基礎学力の定着を図る。

※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度（満点4.0／H26：3.0 H27：3.1）を平成28年度には3.2以上に引きあげ、維持する。

イ 平成25年度に「学校経営推進費事業」を活用して整備したICT機器の効果的活用を進めるとともに、H28年度からは「進学講習ブラッシュアップチーム」（SBT）から進路指導部に役割を移管し、個別自習室・マルチルーム等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させ、進学実績のさらなる向上に努める。

※2年次1月の基礎学力調査の結果（Cゾーン以上H26：25.7% H27：33.3%）を段階的に引きあげ、平成29年度にはCゾーン以上の割合を45%、Bゾーン以上の割合を15%以上に引きあげる。

※平成29年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関・人気大学への合格者30人以上をめざす。（H27：12名）

(2) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な運営推進

ア 「魅力ある学校づくり」の一環として、平成23年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、PTを中心として、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など、生徒の総合的な資質の向上に向け、円滑な運営推進に努める。

※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度（H26：100% H27：100%）を90%以上で維持する。

イ 大学進学希望の高まりに応じて開設した「進学クラス」に対する習熟度別講座ならびに土曜講習等を「吹高 CAN-DO リスト」に沿って計画的にレベルアップする等、PTを中心として円滑に運営する。また、進学クラスでの成果を踏まえて、補習・講習の充実、質問会・宿題の量的見直し、個別自習室の利用促進などによって授業外の学習時間を増加させ、生徒全体の学力の向上を図る。

※進学クラスの生徒が受験する外部模試の偏差値52.5以上の生徒数を、平成29年度には20人以上にする。

3 心身ともに健康であり続ける力の育成

ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適応していく力を育成する。

イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。

※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率（H26：平均73.5% H27：74.4%）を毎年引きあげ、平成29年度には平均85%以上にする。

同じく、生徒・保護者・教員の清掃に関する項目の肯定率を（H26：生徒43.2%、保護者63.8%、教員20.8% H27：生徒32.5%、保護者67.9%、教員15.5%）を毎年引き上げ、平成29年には平均60%以上にする。

4 校内組織・教職員集団づくり、保護者ならびに地域との連携の強化

(1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。

ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。

イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。

ウ 校内研修（ミニ研修）の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。

※教員向け学校教育自己診断等の「学校運営」に関する項目の肯定率（H26：60.4% H27：51.5%）を毎年引きあげ、平成29年度には70%以上にする。

(2) ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努める。

ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図る。

(3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。

ア 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時にPTA実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「授業規律は保たれている」という設問の肯定率は71.2%である。生徒自身の受け止めは昨年値より約14ポイント上がってはいるが、個々の教員がそれぞれの授業力の向上に努めるとともに、生徒への働きかけを組織的に強化していく必要がある。 今年度も79.3%教員が授業アンケートを改善に役立てていると回答し、87.3%の教員が授業見学を改善にいかしたいと回答した。教員の授業力向上への意欲は高いと考える。一方保護者は77.9%（昨年比プラス8ポイント）が生徒が授業に満足していると回答いただいた。今後も、改善への取り組み内容を工夫し、授業力向上につないでゆく。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路希望に応じた教育課程の設定、進路HRや情報提供などの進路指導について、生徒は82.5%（昨年比プラス4ポイント）、保護者84.6%（昨年比プラス6ポイント）の肯定的な回答をいただいた。より一層3年間を見通した進路指導計画のもと、一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導を心がける。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻（92.3%）・染髪（95.6%）・携帯（97.5%）に対する生活指導について、保護者から肯定的な回答をいただいた。生徒からも遅刻防止（92.5%）や登校マナー向上（87.4%）への意識について高い肯定的回答があり、昨年度より向上している。今後も保護者のご理解を得つつ、家庭と学校が協力してこれらの指導を粘り強く継続していくことが重要だと考える。 体育祭・文化祭等の学校行事について、生徒87.0%（昨年比プラス4ポイント）保護者の90.1%（昨年比プラス4.9ポイント）が肯定的な回答をいただいた。今後も、生徒たちの自主性、積極性を伸ばせるよう学校行事の充実を組織的に進めていく。 教育相談について、保護者から昨年同様89.2%の肯定的回答いただいた。学校に悩みを相談できる場があると回答した生徒は65.3%（昨年比プラス5.7ポイント）となっている。引き続き、相談室通信等の発行、学校内外での教育相談・支援教育への認知を高める工夫をすることで、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていく。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の学校運営に関する肯定的な回答が、56.8%となり昨年比5ポイントの増となった。教職員が入れ替わる中で、運営委員会を中心として全教職員が日常的に議論を深める重要性、有効性についての共通認識を持てる取り組みを進めていく。 職員会議の効率化については、教職員の肯定的回答が70.2%（昨年比21ポイントプラス）と回答し、職員会議の時間短縮が定着してきている。全教職員が協力して諸会議の時間を短縮し、研修時間の確保、生徒と向き合う時間の確保につなぐ。 	<p>第1回（6月13日実施）</p> <p>「H28年度学校経営計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 90%以上の生徒が自転車通学とのこと、自転車保険加入についての仕組みはあるのか。 行事での携帯電話の取り扱いについて、学校の指導内容を統一してほしい。 心身共に健康であるということは重要。不登校生徒に対する具体的取組みがわかった。 情報発信は重要。そのためにも学校HPをより見やすくすることが必要である。 <p>第2回（11月24日実施）</p> <p>「授業アンケート結果をふまえて」</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート9項目の内、生徒自身の意識と先生の取組みに対する評価は数値を分けて分析をすると、興味深い結果が得られるのではないかと。 「取組みの進捗状況について」 遅刻の月毎、学年毎の目標値を共有しながら進める方法は、スモールステップの確認という点で効果的だと思う。 硬式野球部が夏の予選大会においてベスト8に入り、うれしく思う。クラブ活動の活性化は重要。生徒のクラブ活動と学習の両立に是非取り組んでほしいと思う。 今年度、研究授業週間を17日間と非常に長くとしているが、教員が自ら全校メールを利用して授業計画を明らかに示し見学を呼びかける姿勢が良いと思う。 今後も経験の少ない先生と経験の多い先生が、互いに研究授業を通じて授業力の底上げをできるよう願う。 「進路のてびき」の内容は3年間の取り組み内容と目標が明確で、生徒にとってわかりやすい地図となっている。先生方がコンパスの役割を担い、進路希望実現の方向に導いてほしい。 新制服はこれまでの制服と比べ、デザイン性だけでなく機能性、価格面でも配慮されていると理解した。 <p>第3回（3月2日実施）</p> <p>「H28年度学校評価について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻数の減少がめざましく、学校の努力が成果に表れている。スモールステップでの目標設定が功を奏したと思う。 進学実績についても、当初の目標値を十分すぎるほど上回っており、この後の一般入試の結果が楽しみである。 PTAでは、クラブ加入率を上げるために協力できることとして、クラブ紹介冊子を作る予定。活用してほしい。 地域から見て、生徒の登下校の様子は非常によくなっている。卒業式でも先生方の指導が行き届いていると感じた。 教育は効果が表れるまでに時間がかかるといわれるが、年度当初の多くの目標値を達成され非常に驚いている。先生方の一所懸命の取り組みが、生徒指導面でも進学面でも結果として表れている。 自己評価の内、目標に届かなかった△の項目が4つあるが、そのうちの2項目については先生方自身の努力で丸にも、二重丸にもなる項目だと思う。次年度はこの点について、奮闘を願う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ</p> <p>(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ</p> <p>(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ</p>	<p>ア、生徒の遅刻防止に対する意識の向上をめざす。そのために、細かい目標設定を行い、本校における遅刻指導について、教員のさらなる理解を深めていく。</p> <p>イ、頭髪指導において、指導経緯を再確認するとともに、生徒へのアプローチを丁寧に行い、頭髪指導に関する生徒の理解を深め、自律を促す取り組みを展開する。</p> <p>ウ、生徒、保護者への連絡を密に行いながら、生徒の自律を促し、家庭と学校とが連携強化をはかるとともに、正しい制服着用の徹底をめざす。そのため、カッターシャツに加え、スカート丈・ピアスの着用に対する指導を拡大する。</p> <p>エ、1年生の自転車交通安全講習会や交通キャンペーン及びポスターなどにより、交通マナーに関する指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。それにより、自転車通学者の違反行為の撲滅をめざす。</p> <p>オ、授業マナー（机上整備・準備の徹底、携帯電話電源OFF等）について、具体的取組を検討し、学年団とも連携のうえ、生徒への働きかけを強化する。</p> <p>カ、1年次に基礎的な情報モラルを育成するため、人権教育推進委員会・情報科・学年が連携し計画的に学習を実施する。</p> <p>ア、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。</p> <p>イ、校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を支援する。</p> <p>ウ、いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見据えた人権HR計画の更なる充実と円滑な実施を行う。 ・望ましい人間関係の作り方や自己肯定感を育成するための、学習プログラムについて検討する。 <p>ア3年間を見通した「進路指導計画」や「模擬試験の年間計画」等を年度当初に生徒に提示し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組むように促す進路指導を行う。</p> <p>イ、各学年の実態に応じた「進路ガイダンス」を実施する。</p> <p>ウ、「吹田進路プログラム」の再検討を通じて「進路のてびき」の内容および使用方法について改訂を行う。</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋及び公務員）に対して、より細かな指導を行う</p> <p>オ、昨年度より定例化した「進路検討会議」の定着を図り、進路実現に向けての課題を早期の掘り起こし、早期の計画的支援につなぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に調査している年間遅刻件数を3000件以下。(H27:3208件) ・年間の頭髪帰宅指導件数を30件以下。(H27:37件) ・年間の服装違反指導を5件以下。服装指導における預かり指導件数を20件以下。(H27:6件、14件) ・生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率80%以上を維持する。(H27:81.5%) ・生徒向け学校教育自己診断における授業規律に関する項目の肯定率65%以上。(H27:57.5%) ・学習後の理解、認識の向上に関するアンケートの肯定率85%以上(H27:90%) ・生徒向け学教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率85%以上(H27:83%) ・教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組みに関する項目での肯定率60%以上(H27:55.5%) ・クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率85%以上を維持(H27:92%) ・生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率75%以上を維持(H27:75.5%) ・生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する項目の肯定率70%以上(H27:67.6%) ・「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等を6月までに生徒に提示。 ・各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施。 ・「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3年は2学期までに3~4回開催。 ・「進路のてびき」の内容の充実に向けた改定をし、1学期中に配付する。 ・就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率100%。 ・「進路検討会議」を、1,2年生は年1回、3年生は1学期に1回、2学期に2回実施。 ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率80%以上。(H27:78.6%) 	<p>ア、月別、学年別の目標を具体的に設定した結果、遅刻総数は2,785件と遅刻防止に対する意識が向上している。次年度も引続き、目標値を明確にして指導を継続する。(◎)</p> <p>イ、帰宅指導は22件。指導内容の定着や生徒へのアプローチの方法の確立により、一定生徒の理解が深まっていると実感できる。次年度も指導を継続させる(◎)</p> <p>ウ、服装違反指導は0件。服装預かり指導は15件。次年度以降、更なる服装強化指導を展開し、正しい制服着用の徹底はもちろんのこと、スカート丈やピアス着用等の身だしなみ指導を定着させる必要がある(◎)</p> <p>エ、安全講習会だけでなく雨天時のレインコート着用の徹底等、新たな取組みを入れながら交通マナーの向上をめざした。学校教育自己診断の肯定率が87.4%と昨年度より向上したが、まだまだ登下校時の安全意識について課題も多く、引き続き取組内容を検討し、粘り強く指導する必要がある。(◎)</p> <p>オ、年度当初に教員全体で規律内容の確認を行った上で、生徒への注意喚起を行った。学年集会等で随時確認を継続した結果、生徒の受止めは肯定率71.2%に上昇し意識の向上がみられた。学習環境を整えることの重要性を理解させる指導を引続き継続する。(◎)</p> <p>カ、「ネットトラブル防止」講演会を実施。事後アンケートでの理解、認識の向上について93.3%の肯定率であった。情報モラルの育成について、次年度も継続していく。(◎)</p> <p>ア、新たな生徒会企画等の実施を通じて、生徒会執行部と生徒の連携は着実に成果をあげている。生徒の学校行事への自主性・積極性に関する肯定率は87%と向上しているが、教員の組織的取組みへの肯定率は56.3%と、やや向上したものの目標数値には至っていない。学校全体の組織的な連携が図れるよう、更なる工夫を重ねていく。(○)</p> <p>イ、生徒会新聞や部代表者会議、HPやブログ、メルマガ等を活用することで、活性化を図った。クラブ員向け満足度は91%の肯定率を維持、学校自己診断での肯定率は、生徒77%、保護者は78%で昨年より向上している。引続き情報発信を強化し部活動加入率向上に繋げたい。(○)</p> <p>ウ、いじめアンケートは本校独自のものを加えて2回実施。担任を中心に丁寧な聞き取りを行い、関係部署との連携のもと、迅速な対応を行った。また、人権HRは計画に応じて円滑に実施できた。教職員は「生徒理解のための『エゴグラムSHE』活用法」をテーマに研修を実施。生徒達の自尊感情育成の理解は深まった。その結果、学校教育自己診断における人権教育に関する肯定率は73%で昨年より大きく向上した。引き続き、人権教育の促進を図る。(◎)</p> <p>ア、3年生には4月段階からガイダンスを通じて計画的取組を促すことができたが、1・2年生に関しては、「進路のてびき」の完成が遅れたこともあり、その都度の資料配付をしながらの働きかけとなった。今後は、資料も含めて計画的進路指導としたい。(○)</p> <p>イ、1年生（職業別進路説明会：11月実施）、2年生（分野別進路説明会：12月実施）、3年生については、①年間スケジュール等の確認（4月実施）、②評定平均の計算等（4月実施）、③分野別進路ガイダンス（4月実施）、④学校別進路説明会（5月実施）の計4回実施できた。(○)</p> <p>ウ、再検討に伴い、「てびき」の作成が予定に間に合わず配付は2学期となった。(△)</p> <p>エ、丁寧な指導の結果、就職希望生徒の内定率は100%(○)</p> <p>オ、1年生は11月、2年生は2月、3年生は6月、9月、12月に実施した。生徒の課題について早期の支援に結びつけることができた。次年度も更なる充実を図る。進路指導に対する生徒の肯定率は82.5%であり、今年度の取組みに対する生徒の満足度は高い。来年度はさらに、生徒が主体的、計画的に取り組めるよう、早期に教員側の指導内容、指導体制の確立が必要である。(◎)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成</p>	<p>(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す</p> <p>(2) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な運営推進</p>	<p>ア、平日放課後実施の進学講習の更なる充実、個別自習室、マルチルーム、スタディールーム、学習アプリケーション等の利用の推進について、進路指導部が中心となって取り組み、自学自習する生徒への支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年主任を中心として、引き続き「朝ガク」の成果を整理し、「基礎学力の定着」「学習環境の確立」という両視点で、3年間を見通したベースプランの策定を行う。 <p>イ、「吹田進路プログラム」と「CAN-DO リスト」の関連性を整理したうえで、「進学クラス CAN-DO リスト」の更なる改訂を行い、内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回（7月、12月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。 <p>ウ、ICT活用授業、アクティブラーニング等、「わかる・できる・興味をもてる授業」実現に向け、校内外での研究授業・研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次1月の基礎力判定テストの学習到達ゾーンCゾーン以上の割合（H26：25.7% H27：33.3%）を35%に引き上げる ・進学講習の受講者のべ 350名以上（H27：341名） ・「朝ガクベースプラン」の作成 ・「進学クラス CAN-DO リスト」の更なる改訂 ・授業アンケート結果の平均 3.2以上（H27:3.1） ・校内研究授業を年間8回以上の計画的実施（H27:7回） ・こども未来専門コースの授業に対する満足度 90%以上を維持する（H27:100%） ・実習受け入れ園の事後アンケートで、取り組みに対する肯定率100%（H27：100%） ・土曜日講習に対する満足度 80%以上（H27:79.9%） ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者を20人以上（H27：12人） 	<p>ア、全学年の進学講習を進路指導部が取りまとめを行い、講座時間割の作成等を含め、参加促進の働きかけを行った結果、参加者は588名に増加。また、教務部中心に個別自習室の利用方法を整備し使用促進を図った。一方、基礎力判定テストでのCゾーン以上は22%にとどまった。今後、学習アプリケーションの利用促進等、更なる自学自習の支援を強化する。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「朝ガク」は、「学習環境の確立」の視点では定着しているが、「基礎学力の定着」の視点では今後の工夫の余地がある。学年主任を中心にベースプランの検討は行ったものの、作成までは至らなかった。引き続き、検討を行う。(△) <p>イ、次年度、観点別学習状況の評価を踏まえた年間計画(シラバス)の作成となり、一部「進学クラス CAN-DO リスト」の内容をシラバスに移行させることとした。よって、シラバスの充実を念頭に、土曜講習・進学講習に特化した「CAN-DO リスト」作成を実施しているところである。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートをもとに個人での振り返りを行った。アンケート結果の平均は目標値には届いていないが3.13と昨年を上回り授業力の向上傾向はみられる。更なる向上に向けその方策の工夫が引き続き必要である。(△) <p>ウ、公開研究授業期間を3週間に拡大し、ICT活用やAL型の授業について研究協議を深めた。また若手研修では、学習指導要領の改定を踏まえつつ、今後の教育の方向性について理解を深めた。研究授業は9回実施。今後も、授業力向上にむけた取り組みを工夫する。(◎)</p> <p>ア、こども未来専門コースの授業に対しての満足度は97.2%で、生徒のニーズに合った授業が行われていると判断できる。実習を行なった園に対するアンケートで、「今後の受け入れについて」は、すべての園から肯定的な回答をいただいた。(○)</p> <p>イ、進学PTを中心に進学クラスの意欲向上にむけ丁寧な指導を行った。土曜日講習に対する満足度調査は82.1%と生徒のニーズに合った内容になっている。今後も「CAN-DO リスト」をもとに内容の精査を図る。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学PT、進路指導部の連携のもと、きめ細かな進路指導を行った結果、関関同立・産近甲龍レベルの合格者は30人となった。(◎)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 心身ともに健康であり続ける力の育成</p>	<p>心身ともに健康であり続ける力を育てる</p>	<p>ア、多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議（みかん会議）で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、養護教諭による健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。併せて、生徒及びPTAを対象とした性教育講演会を実施する。 ・スクールカウンセラーと連携し、コミュニケーション力育成のための生徒及びPTA向けの心理学講座を実施する。 <p>イ、保護者や生徒保健委員会、地域を巻き込んだ清掃活動を通して美化意識を向上させる。生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーンを年間10回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検活動等を強化し、校内清掃を徹底させることで、校内美化の意識を向上させる。 <p>ウ、生徒と教職員による安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。</p> <p>エ、関係各機関と連携し、防災教育や防災避難訓練、救急処置講習会、薬物乱用防止教室を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。とりわけ防災に関しては、防災職員研修や生徒保健委員会主催の防災安全だよりの発行、災害の発生時間や場所に変化を持たせた避難訓練等を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率が生徒65%、保護者90%以上（H27:生徒59.6%、保護者89.27%） ・ミニクリーンキャンペーン年間10回の実施（H27:10回） ・生徒・教員向け学校教育自己診断での清掃に関する項目の肯定率がそれぞれ40%以上（H27:生徒32.5%、教員15.5%） ・安全点検の実施と事務室による対応結果の確実な共有 ・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率80%以上（H27:98.7%） 	<p>ア、生徒情報会議（みかん会議）を年間10回開催し、要配慮生徒の情報共有を継続して行った。早期に支援を開始し、ケースによっては専門医や適応指導教室等の学校外の関係機関とも連携し、支援を継続した。虐待や希死念慮が疑われ早期介入が必要な事象、障がいのある生徒等、各関係機関と連携し、心身の安全確保、将来の自立、社会参加をめざして継続した指導・支援を行った。学校教育自己診断での肯定率は、生徒65.3%、保護者98.8%であった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医・学校歯科医による健康相談は年間11回実施し、延べ48名の生徒に対して心身の健康についての悩みや相談について専門的立場から指導助言をいただいた。また、養護教諭による健康相談では、禁煙指導、服薬指導、健康管理等について指導した。性教育講演会も実施できた。 ・スクールカウンセラーの協力を得て、保護者、生徒対象の心理講座も実施できた。 <p>イ、生徒保健委員による校内清掃啓発活動であるミニ・クリーンキャンペーンを年間10回実施し、美化意識の向上を図った。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃の点検活動を強化するとともに、教員への働きかけも職員会議等を通じて行った。学校教育自己診断で、生徒の肯定率は61.1%、教員は27.1%。改善傾向にはあるものの教員の更なる働きかけが必要である。(○) <p>ウ、職員及び生徒による定期安全点検を4回実施。また、生徒保健委員による安全点検もミニクリーンキャンペーンと合わせ、年間10回実施した。事務室と連携し、学校で可能な対応、処置を行い、その結果も共有できた。来年度は日常の安全点検についてもさらなる啓発に努めたい。(○)</p> <p>エ、生徒保健委員会の取り組みとして、新たに防災安全だよりを年間4回発行した。防災避難訓練、救急処置講習会、薬物乱用防止教室、献血セミナーを実施。事後アンケートでは、理解認識の向上について94.8%の生徒が肯定的に回答した。(◎)</p>

4 校内組織・教職員集団づくり、連携強化	<p>(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり</p> <p>(2) 校務の効率化</p> <p>(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実</p>	<p>ア、「基本的な生活習慣・規範意識の確立」「学力向上」「授業力向上」を学校全体の大きな取組課題ととらえ、分掌を超えて「学務グループ会議」・「生徒グループ会議」の活性化を図り、運営委員会での方針決定をスムーズに行う。</p> <p>イ「制服検討委員会」が中心となって、学校・地域・中学生等の広範な意見を集約し、新たな制服の選定をスムーズかつ適正に行う。</p> <p>ウ、あらたな吹田高校にふさわしい教育課程について検討を開始する。</p> <p>エ、職員会議の迅速化に対する意識の向上に努め、職員会議内での「ミニ校内研修」の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。</p> <p>ア 校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間のさらなる短縮をめざす。</p> <p>ア・学校行事・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA 等の保護者との連携を強化する。</p> <p>イ・広報PT が中心となり、より効果的な広報活動についてトータルに検討し実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関する教員向け学校教育自己診断における校内組織の機動性・教職員集団の活性化に関する項目の肯定率 60%以上 (H27:51.5%) ・中学校や在校生等、多方面の意見集約を行い、新制服を適正に決定する。 ・職員会議の時間短縮による「ミニ校内研修」の実施回数 4 回以上 (H27:4 回) ・保護者向け学校教育自己診断における広報に関する項目の肯定率 75%以上 (H27:70.3%) ・学校 HP の閲覧数前年度比 5%増 (H27:15%) 	<p>ア、「学務グループ」「生徒グループ」として、定例会議を実施し、分掌間での連携を強化した。学校教育自己診断での肯定率は指標を下回るものの 56.8%と向上している。更に学校組織の活性化をめざす。(△)</p> <p>エ、生徒会、PTA 実行委員会、学校協議会等の機会を通じて広範な意見を集約し、新たな制服を適正に制定できた。(○)</p> <p>ウ、新たな教育課程の検討は計 7 回のカリキュラム委員会を通じて検討を重ねた。今後、学習指導要領の改定を踏まえ、引続き教育課程の検討を続ける必要がある。</p> <p>エ、ミニ研修は 3 回実施した結果、内容を深めるために放課後の時間帯を使い急遽、新たな研修を 1 回実施するなど、柔軟な形で学ぶ機会を作ることができた。今後も、機に即した研修を実施していく。(○)</p> <p>ア、校内メールや共有フォルダの使用等は一定定着がみられ、職員会議等の時間短縮につながっている。</p> <p>ア、文化祭や体育祭における P T A や後援会等との連携は強化できた。今後は地域住民との連携について更なる具体化が必要である。</p> <p>イ、広報 P T 中心に学校説明会、中学校訪問、HP 更新、メールマガジン発行等を実施。HP は部活ブログを利用したリアルタイムの情報発信が受け入れられた。広報に関する肯定率は 74.3%。閲覧数は昨年並みにとどまった。部活以外の学校生活情報を更にリアルタイムでの発信方法を検討する。(○)</p>
----------------------	---	---	--	---